

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103417
法人名	株式会社 メディックス
事業所名	パートナーハウス こすもす
所在地	松山市高井町724番
自己評価作成日	平成26年5月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>お一人お一人の思いや意見を大事にし、なるべく希望が叶うように支援している。入居者様が生き生きと生活できるようまた、笑顔が沢山見れるように尊厳を守り優しさを持って笑顔で接する事を大事にしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の敷地内には、ヤマボウシの花が満開に咲き、ビワの木には実がたわわに実っていた。玄関前には、ポチュカ等季節の花のプランターや木製のベンチ・椅子がいくつか置かれており、利用者は普段から、風を感じながら周辺の景色を眺めたり、ひと休みされているようだ。玄関には紫陽花の花が活けてあり、廊下やユニットの壁面には、行事や外出の写真、利用者の描いた絵や書道の作品等が多数掲示されていた。調査訪問時、居間の「出合いは人生の宝」と書かれた作品を書いた方が、「思いついた言葉をこうやって書くんよ」と説明してくださった。</p> <p>ユニット毎のレクリエーション担当者が、利用者の希望をお聞きしながら毎月の外出計画を立てており、花見や梅・紫陽花の鑑賞、ぶどう狩り、イチゴ狩り等に出かけておられる。計画の他にも、その日の会話がきっかけで外出することもある。調査訪問時には、利用者が「昨日久万に行ったのよ」と、久万高原町へドライブに出かけたことを話してくださり、道の駅でソフトクリームを食べたり、いなり寿司等の買い物もされたようだ。外出の際には、ゆっくりと楽しんで過ごせるよう、事業所で昼食を済ませてから外出するようにしており、又、お誕生日や外食の希望があった際には、個別で外食できるよう支援されている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム パートナーハウス こすもす

(ユニット名) Cユニット

記入者(管理者)

氏名 布施 千秋

評価完了日 H26 年 5 月 30 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「あるがままを笑顔で支える・・・家族と共に、地域と共に」を、皆で支えていくことをより強く思える理念とし共有している	
			(外部評価) 事業所では、「利用者の人格と価値観の尊重」「安心と意欲のもてる自立生活への支援」等、4項目を運営理念に掲げているが、6年前、職員全員で考えて、事業所に関わる人達に分かりやすい言葉にして掲示されている。管理者は職員に、笑顔を見せることの大切さを話し、さらに、ご家族や地域の方達への挨拶や声かけを心がけ、コミュニケーションに努めるよう話しておられる。今年度は、毎日の生活の中で利用者がお好きな歌や踊りを楽しむ時間を設け、笑顔を引き出せるよう力を入れて取り組まれた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のお祭りや、清掃作業に参加したり、こちらの納涼祭に来ていただいたり、運営推進会議に参加していただいたり、積極的に交流している	
			(外部評価) 毎年、系列事業所と合同で行う納涼祭には、地域の方達も多数参加しており、利用者と一緒にバザーやカラオケ、盆踊り等を楽しまれている。公民館で行われる盆踊りの練習に利用者も参加し、納涼祭に踊ったり、町内の夏祭り時には、車いすを利用する方も盆踊りの輪に交って一緒に踊られた。又、秋祭りの提灯行列や神輿、獅子舞、亥の子等の折には、地域の方達や子ども達との交流がある。地域の小学生が学習の一環で「施設探検」に来てくれた時には、管理者が建物内を案内して認知症について説明したり、小学生からの質問等に答えたりされた。後日届いた子ども達からの手紙は、居間に掲示されていた。中学生の職場体験や専門学校生によるメイクやハンドマッサージのボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 経験で身に着けたこと、研修で教わったこと等を、運営推進会議を通じて発信している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方や家族、また介護保険課の方々にいろいろな意見等を出していただき、日々のサービスに活かしている。	
			(外部評価) 会議には、市の担当者及び地域包括支援センターの職員、町内会長、ご家族、利用者等が参加されており、参加できなかったご家族には、議事録を送付されている。会議では毎回、利用者の状況や活動を報告しており、「薬の重要性」「感染症」等、テーマを決めて勉強する機会を作ったり、家族会(クリスマス会・ミニ運動会)を併せて行うこともある。年度末には、一年間の振り返りを行い、来年度の事業計画の報告もされている。民生委員の方が地域の高齢者の状況を教えてくださっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 社内研修等にもご協力いただいたり、よく連絡をとりあって運営に生かしている。	
			(外部評価) 今年度の法人内研修では、市の介護保険課の方に講師を依頼して、「介護保険制度について」をテーマに、基礎的な内容やしぐみについてお話をいただいた。又、地域包括支援センターの声かけで、2ヶ月に一度、地域のグループホームが集まる機会を持っており、職員は交代で参加して、困難事例や看取り等のテーマについて意見交換されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) どんな状態にあっても、一切身体拘束は行わないことに徹底している。玄関も常にオープンである	
			(外部評価) 居室のベッドから転落の危険性がある方には、床に畳やクッション性のある敷物を敷いて、ずり這い等してご自由に移動できるよう、しつらえておられた。居間に出て来られたら、職員が見守り、手すりにつかまりながら車いすに移乗し、皆と過ごせるよう支援されている。階段を使用して2階ユニットへ行きたい様子が見られた際には、職員が声かけしてエレベーターで案内しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者はユニット内を常に把握するよう努めており、必要に応じ指導を行っている。また順次講習を受けて、どうことが虐待にあたるかを学び、日ごろのケアの中で、より慎重に防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社内研修・外部研修で学び、全員が理解し説明できるよう努力している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際に、契約書の説明をさせていただき、また自宅へ帰ってから、もう一度契約書に目を通していただき、わからないところは質問していただくよう、十分納得の上で締結するようにしている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 率直な意見を言っていただけるような、関係づくりに努めている。 (外部評価) 毎月発行している「こすもす便り」には、外出や行事の写真を掲載して、利用者個別欄には、ご本人の近況や健康面を職員が手書きしておられる。事業所のブログには、外出や行事の様子、又、避難訓練や法人内研修の様子もアップしており、ご家族からは「わかりやすい」と好評のようだ。遠方のご家族とは、管理者がメールにてやり取りをして、コミュニケーションをとることも継続しておられる。年2回の家族会(クリスマス会・ミニ運動会)は、運営推進会議と併せて行っておられ、ミニ運動会では、ご家族が審判をしたり、利用者と一緒に玉入れを楽しまれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			法人全体の週報を発行し、事業本部や管理者への意見・提案を募っている。またユニット毎のミーティング・リーダー会を行い機会を作っている	
			(外部評価)	
			毎月、全体・ユニットごとのミーティング、又、リーダー会が行われており、職員が意見を出す機会がある。又、年2回実施している個別面談時には、管理者が職員の相談や悩みを聞くようにされている。法人内研修には職員が交代で参加しており、業務の一環として参加できる仕組みになっている。研修内容はミーティング時に周知して、すべての職員で共有できる仕組みを作っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者は頻繁に事業所を訪れ、細部にわたり把握され、職員にこえ掛けされる。さらに定期的に労働条件を見直し、働きやすい職場環境となるよう最善を尽くされている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			社内に教育研修部を設け、社内研修・外部研修・資格試験のサポート等職員のスキルアップを図っている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			地域包括のグループホーム交流会に積極的に参加させていただき、他の事業所と交流し、お互いが向上していく体制をつくっている	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用開始前から信頼関係づくりに努めている。ご本人、ご家族が安心して利用できるよう、納得いくまで話あって、本当に喜んで入居していただけるよう最善をつくしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の申し込みをされた段階から、ご家族の思いを聞き、さらに利用開始の時点でより深く話し合いを行い、パートナーとして、一緒に支えあえるような関係づくりをしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 話し合いをきちんとすることで、ご本人やご家族が、今一番困っていること、必要としていることを見極め、対応、支援させていただく	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 時に先生になったり、生徒になったり、それぞれ得意な分野で手伝ってもらったり、教えあったり、共に支えあうという関係づくりをしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族はゲストではなくパートナーとしてお迎えし、一緒に支えていくという関係作りをしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも面会できたり、行きたい所へいけるよう支援している (外部評価) ご家族と一緒に出かけ、食事して帰る方もいる。猫がお好きな方と、「猫の写真展」を楽しみに出かけられるよう支援されたこともある。「お墓参りに行きたい」と希望する方には、職員が車いすを用意して同行したり、県外から帰省したご家族と待ち合わせて出かける場合もある。ご本人は大変喜ばれ、ご家族も「一緒に来られて良かった」と感想を話されたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	テーブルの位置を変えたりして、関わるグループに変化をつけたり、職員が間に入り、孤立したり、もめたりしないよう支援している
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	時々連絡をとり状況確認をし、いつでも相談に応じることをお伝えしている
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	可能な限り、ご本人の思いに添えるよう支援している。意志疎通の困難な方でも、できる限り理解するよう努力している。
			(外部評価)	
			職員は、利用者との日々の会話や様子から、利用者一人ひとりの好きな事やこだわり、その時々のお気持ちを探りながら支援できるよう努めておられる。日々の介護記録には、利用者の言葉や状態等を具体的に記入されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	ご本人・ご家族・担当ケアマネージャー・サービス提供責任者等から詳しく聞き取り、今後の生活に生かしていけるよう配慮している
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	ケアマネ・リーダー・看護師・介護職をまじえたミーティングにおいて、常に現状の把握に努め、その時々でケアプランの見直しをしている

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティングにおいて、皆で介護計画を見直しながら、その時点での最善と思われるプランで、本人・家族と話し合い計画を作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、ご本人、ご家族の希望を採り入れながら作成されている。ご家族からは、「水虫や汗のケア」「廊下を歩かせてほしい」「塗り絵をさせてほしい」等の希望があるようだ。これまでは、計画の見直しを基本的に6ヶ月毎としていたが、3ヶ月毎に見直すようにして、さらに現状に即した支援につなげようとしている。計画の支援項目は日々の介護記録にも記入し、毎日、○×でモニタリングして、できなかった場合は理由も記入するようになっている。3ヶ月毎に評価して計画の見直しにつなげておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気づいたこと、あったこと、全て対応した職員がその都度個別介護記録に記載し、その情報を正確に共有し、問題点が発見しやすく見直しに役立つよう工夫している	
			(外部評価)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 常に変化する利用者に対して、柔軟に対応している。	
			(外部評価)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市の職員、民生委員、消防署員、美容師等さまざまな方に関わっていただき、日々心豊かに安全に暮らせるよう支援している	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人、ご家族の希望する医療機関へ受診、または往診にきていただいている。また24時間対応の医療機関とも連携し万全を図っている	
			(外部評価) 利用者、ご家族の希望する医療機関で診てもらえるよう支援されている。利用者の状態によっては、協力医の他にも往診可能な医療機関を数件提案して、選べるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎朝の申し送り時や、その都度必要に応じ、介護職から看護師へ報告や相談をする。看護師は必要に応じ主治医へ連絡する。また受診時、往診時に付き添い情報提供して支援する	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 頻繁に病院を訪れ、主治医や看護師と情報交換を行い早期退院を目指す。病院からの入居相談にも尽力し、いい関係をつくっている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期のあり方について、運営推進会議等で説明させていただいた。看取りや医療への転換についても状況に応じてその都度説明させていただいている。また、利用者、家族の希望に出来るだけ添えるよう努力している	
			(外部評価) 入居時に看取りの方針について説明しており、多くの利用者やご家族が事業所での看取りを希望されている。今年度は、6月に2名の利用者の看取りを支援された。食えることが好きな方には、最後まで食えることを大切にされた支援に努められた。ベッドで過ごすことが長くなった時期には、お花等、お好きなものの話題でお話したり、歌のカセットを付けて一緒に聞いたり歌ったりして過ごせるよう支援された。他の利用者が励ましたり慰めたりして、声をかける様子も見られたようだ。職員の声掛けがきっかけとなり、足遠くなっていたご家族も度々来てくださったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の協力を得ながら、救急救命の講習を社内で行い、すべての職員が救急時に対応できるように訓練している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署の協力で、消火・通報・避難の訓練を行っている。全職員と全入居者で万が一に備えている。町内の方、民生委員の方々とも協力体制ができています	さらなる利用者、職員の安全安心のためにも、消防署からのアドバイス等をもとにして、避難訓練を行ったり、又、想定を替えてみる等、いろいろな場面を想定して訓練を重ねていかれてほしい。又、地域との協力体制についてもより具体的に取組まれてほしい。
			(外部評価) 12月には夜間想定避難訓練、2月には町内合同消防避難訓練を実施されている。2月の訓練では、地域の方々と一緒に、通報・避難誘導訓練や起震車体験、水消火器での消火訓練を行われた。消防署の方からは、事業所は耐震構造になっていることから、地震発生時には、「テーブルの下に入ったり、防御できるもので身体を守り、落ち着くまで事業所内で安全確保することが大切」とのアドバイスをいただいた。又、運営推進会議時に、消防署の救命救急士を講師に、「救命救急法」について研修を実施した際には、「利用者の年齢や病歴、服薬等の情報をまとめておいたものがあれば助かる」等のアドバイスもいただいたようだ。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 立派な人生を歩まれた大先輩として尊敬し、一人一人それぞれに配慮した声かけや対応に心がけている	
			(外部評価) 調査訪問時、職員は利用者の目線に合わせて姿勢を低くし、穏やかにゆっくり話しかけておられた。ご自分の気持ちを強く訴えたい利用者には、管理者が事務所で心ゆくまでじっくりお話を聞き、安心してユニットに戻れるよう支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 優しく、分かりやすく話しかけることによって、ご本人が思いを伝えやすい雰囲気作りを心がけている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 優しく、分かりやすく話しかけることによって、ご本人が思いを伝えやすい雰囲気作りを心がけている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容師にきてもらい、楽しく会話しながらおしゃれを楽しまれている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 匂い・音を感じていただきながら食事作りをしている。出来る方には片付けを手伝ってもらったりしている	
			(外部評価) 業者で立てた献立で食材も届き、各ユニットで職員がレシピに沿って調理している。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み食事しており、会話しながら味付けの好み等を聞き、採り入れるようにしている。利用者から食べたいもののリクエストがあった場合や行事時には、食事を手作りされている。「すし処」の暖簾をかけて演出し、にぎり寿司、押し寿司、豚汁を楽しまれた際には、「おいしいわい。寿司屋に来たみたい」と好評で食欲も増したようだ。調査訪問時には、昼食前に、歌を歌いながら口腔体操を行っておられた。食後には、利用者が下膳、お盆ふきをしている様子も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士のつくったメニューを使い、バランスのとれた食事作りをしている。一人ひとりの状態に応じて調理形態を変えている。また、一日の食事摂取量、水分量を記録し把握している。状況によって、看護師と相談しながらそれぞれ対応している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じた口腔ケアに心掛け、定期的に歯科医にチェック・指導をいただく体制をつくらせている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) それぞれのパターンを把握し、声かけ・誘導にてトイレで排泄することを基本としている	
			(外部評価) 日中は、できるだけトイレで排泄できるよう支援し、夜間は、ポータブルトイレを居室に置く等、個々の状態に応じて支援されている。入居時、トイレに行くことができなかった利用者がおられたが、職員は、利用者の精神面にも目を向けて信頼関係を作ったり精神状態の安定等を支援し、トイレで排泄できるようになったような事例がある。ご家族は、ご本人の笑顔が見られるようになったことをとても喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) きちっと食事や水分をとること、適度な運動をする事、その人その人のパターンに合わせた時間帯にトイレに座ることなどに努めている	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日声かけさせてもらい、本人の希望にそった時間で入浴していただく。自己決定できない方は、状況に応じて対応させていただく	
			(外部評価) 入浴は基本的に午後からとなっているが、希望があれば、夜間等、他の時間帯にも支援できるようになっている。毎日入浴したい方や同性介助を希望する方にも対応しておられる。入浴を嫌がる方でも、時間をずらして誘ったり、声かけの工夫で入浴につなげられるよう工夫されている。重度の方が数名いるユニットには、男性職員を多めに配置し、浴槽をまたぐことが危ないような方や、広めの浴槽を怖がる方には足湯をしながらシャワー浴で対応されている。今後はさらに、重度の方の入浴希望やこれまでの習慣等も探りながら、支援に採り入れてみてはどうか。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 出来る限り離床時間を長くすることを意識しながら、一人ひとりのその時々状況に応じて、休息していただく。夜も個々のペースで休めるよう支援している	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬の説明書を必ず読み、把握する様にしている。社内研修においても薬の理解、服薬の理解、副作用について学んでいる。状態の変化を見逃さないよう支援している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて、出来ることを一緒にしたり、自分の役割を持っている方もいる。個別での外出(外食やお買い物など)を大切にしている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 庭を散歩したり、遠くへドライブしたり、買い物に行ったりしている	
			(外部評価) ユニット毎のレクリエーション担当者が、利用者の希望をお聞きしながら毎月の外出計画を立てており、花見や梅・紫陽花の鑑賞、ぶどう狩り、イチゴ狩り等に出かけておられる。計画の他にも、その日の会話がきっかけで外出することもある。調査訪問時には、利用者が「昨日久万に行ったのよ」と、久万高原町へドライブに出かけたことを話していただき、道の駅でソフトクリームを食べたり、いなり寿司等の買い物もされたようだ。外出の際には、ゆっくりと楽しんで過ごせるよう、事業所で昼食を済ませてから外出するようにしており、又、お誕生日や外食の希望があった際には、個別で外食できるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 全員ではないが、出来る方は自己管理をさせていただいている。中には、使わなくても持っているだけで、安心と満足を感じている方もおられる	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由に電話をかけていただく。ご自分で出来ない方はお手伝いし、取次ぎも随時行い交流支援をする。手紙を書かれる方もいらっしゃる	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共有空間は、清潔と家庭的雰囲気を心がけ、花や飾りも季節感を大切にし、変化をつけている。壁面も季節の飾りつけを心掛けている。利用者さんの作品も展示している</p> <p>(外部評価) 事業所の敷地内には、ヤマボウシの花が満開に咲き、ビワの木には実がたわわに実っていた。玄関前には、ポーチユラカ等季節の花のプランターや木製のベンチ・椅子がいくつか置かれてあり、利用者は普段から、風を感じながら周辺の景色を眺めたり、ひと休みされているようだ。玄関には紫陽花の花が活けてあり、廊下やユニットの壁面には、行事や外出の写真、利用者の描いた絵や書道の作品等が多数掲示されていた。調査訪問時、居間の「出会いが人生の宝」と書かれた作品を書いた方が、「思いついた言葉をこうやって書くんよ」と説明してくださった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室でゆっくり自由に過ごしたり、ホールで気の合う仲間と語ったり出来るよう、環境整備を図り支援の工夫をしている</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 畳を好まれる方は、畳を使用している。なるべく使い慣れたものを持ってきて頂き、安心して過ごして頂けるよう心掛けている</p> <p>(外部評価) 俳句が趣味の方は、自作の短冊を飾っておられた。好きな言葉や絵を描く方は、筆や画材を机の上に準備しており、調査訪問時、来年の干支のデザインの練習を始めておられた。又、毎日日記を付けて、体調や日々の出来事を書き留めている方もある。男性利用者で、グラビア写真を壁面に貼ったり、家族の思い出の写真やお孫さんからのお手紙を飾っている方も見られた。若いころ和裁をしていた方は、くけ台を持ち込まれており、タオルの端のほつれやズボンの裾上げ等の繕いをすることもある。ベッドからの立ち上がりが楽なようにと、ご家族がポールを取り付けている居室もあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 完全にバリアフリーにしており、手すりも十分に設置してある。トイレやお風呂も、一人ひとりの状態に応じて選べるようになっている</p>	